

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 5 No 07

4 8 号

平成9年 7月 1日

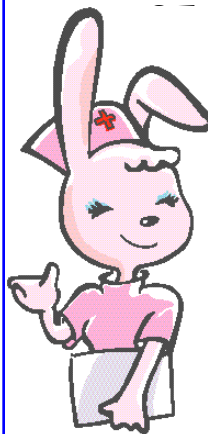
発行 かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.ifnet.or.jp/kazu.k/>

赤ちゃんの脱水症

赤ちゃんは大人と比べ何倍もの水分が必要です。今回は赤ちゃんの脱水について考えてみましょう。

赤ちゃんの体重に対する水分の割合は、成人より多く70～80%占めています。したがって体の水分を維持するために、多くの水分が必要になります。体重当りで150mlが必要で、5kgの赤ちゃんの場合は、約800ccにもなってしまいます。その量が多いことは成人を例にあげれば一目瞭然で、50kgの大人が、8lも飲めないこと考えれば明らかです。そのため摂取する水分が少ない場合や失われる水分多い場合には、容易に脱水症になってしまうのです。

脱水症の原因には様々なものがあります。下痢や嘔吐がその代表で、水分の入る量と出る量のバランスが問題となります。他にも発熱等によって哺乳量が少なくなることも原因となります。またこれから暑い季節になると汗や不感蒸泄（目に見えない蒸発によるもの）等によっても失われる量が増えてきます。極端な高温の条件（真夏の車の中、風通しの悪い室内）では、脱水症の危険性が高まります。炎天下の車の中に放置することによる不幸な出来事は、毎年夏になると報道されます。もちろんこれは脱水だけでなくうつ熱（調節を越えた範囲の高熱）も原因となっている。



脱水症で最も大切なのが、予防です。下痢をしている場合は飲ませると下痢が出るからと言って、飲ませないお母さんがいます。しかし基本的にはこれは間違いなのです。水様便の場合は飲ませなくとも、腸に水分が滲み出てきています。そのみ出た分を補うことが大切です、失われる上に与えることが必要です。嘔吐の場合少し違ってきます。脱水症を必要以上に配するあまり無理に与え続けると、か

栄養育児相談
毎週水曜日 13:30～14:30
無料 栄養士担当
休日当番
7月13日(日)は当番のため
9:00～16:00まで診療。

えって嘔吐が止まらなくなることがあります。そのときには少なめの水分をこまめに与えることが必要になってきます。風邪による発熱や食欲がない場合には、無理やり食べさせず水分の補給を心掛けて下さい。補給する水分としては



イオン飲料が考えられますが、大人用では子どもには合いません。子供用のイオン飲料かもしくは、病院で処方するものが最適です。イオン飲料にこだわり過ぎる必要はなく、水分と単純に考えてお茶や湯冷し等でも構いません。もう一つ大事なことは環境です。熱があつて具合が悪い時には、過ごしやすい環境をつくってあげて下さい。熱ければ涼しくが基本です。よくクーラーなどの使用について質問されます。せっかくの文明の利器ですから、子どもの状態に合わせて上手に使ってあげて下さい。大人に合わせず、冷え過ぎないようにを心掛けて下さい。暑い時期の車の中や部屋の中に、短時間といつても放置することなどはもってのほかです。

治療は軽症の場合は口からの補給になりますが、元気がない、不機嫌、尿量が少ない場合には点滴による治療が必要となります。

赤ちゃんは水分に対する余裕が少ないことを考えて、症状などで思い当たる場合は早めの受診が必要です。大人の不注意による脱水は油断から来るものです。この時期は赤ちゃんを取り巻く環境に十分注意を払ってください。

この内容の一部は、仙台市医師会監修『ハロドクター』の8月号に掲載されます。

学会出席休診のお礼
6月21日(土)は盛岡の学会に出席し、『INTERNETと育児支援』を発表してきました。休診に際しては、御迷惑をおかけしました。御協力ありがとうございました。

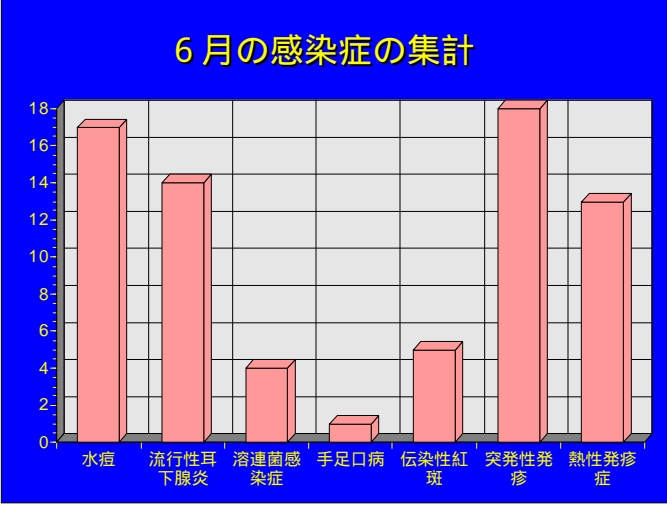
臨時休診のお知らせ
7月26日(土)は、宮城県小児科医会の移動理事会(白石)のため、**午後臨時休診**とします。御迷惑をおかけしますが、御協力よろしくお願い致します。

読者の広場 当院がINTERNETでホームページを開いているのはすでに御存知のことと思います。今までも当院の患者さんからも何度も電子メールを頂いていました。今回は宮城野区のA.Oさんから質問の電子メールを頂いたので、その一部を紹介します。「(省略)話は変わりますが、クリニックNEWS、いつも娘が病気をしたときに開いています。「下痢」とか「嘔吐」などの具体的な対処法は、初めての子どもの病気にあたふたしている母にとっては、他の育児書などよりもずっと頼りになります。ただ、数カ月ぶりにクリニックに行ったときなど、その間に発行されているNEWSをいただけるとうれしなあとすることがあります。待合室の隅っこに半年分くらい置いていただくことはできませんか?でも、看護婦さんもとっても忙しいので、さらに仕事を増やすことになるから無理かもしれませんね。余談になりますが、私は以前、コンピュータのソフト開発の仕事をしていて関係で今もパソコン通信を楽しんでいるのですが、夫の転勤でやってきた家の近くの小児科の先生がホームページを作っていたり、メールで相談にのっていただけると聞いて喜んでいますが、どうぞ、先生自身もお体に気をつけて、いつまでも私たち親の不安を取り除く、親切な診療をして下さると嬉しいです。これからもよろしくお祈りします。」他にも喘息と予防注射に関する質問があったのですが、省略しました。このことに対する答えを原文のまま載せておきます。「遠慮無く声をかけて、貰って行って下さい。全部の号が準備してあります。」



かわむらこどもクリニックニュースは、当院で乳児検診を受けた場合には第1号から全号を無料で差し上げています。普通はその月に来院した患者さん達に、当月号を差し上げています。乳児健診を受けていない場合には、誰がどのくらい貰っているのかわかりません。また実際には発行部数も多いため経費は可なりかかっていますが、無料で差し上げています。診察室での会話の中から察するに、残念ですが貰っているのに読んでいない方もいらっしゃるようです。読んでくれる人に差し上げなければ、ニュースも生きません。読みたい方は、どうぞ御遠慮泣く声をかけて下さい。INTERNETを利用できる人は一部の人かも知れません。診察中に聞けなかったことや説明が足りなかった場合には遠慮無く、メールを下さい。INTERNETの医療相談は昨年の3月から始め、現在で250通以上になり最近では月20通以上になっています。返事がすぐとは限りませんが、当院の患者さん達も利用できればと思っています。クリニックニュースもINTERNETの医療相談もボランティアで行っているものです。

以前病院のおもちゃや時計の紛失を掲載したところ、青葉区の高橋さん、宮城野区の田所さんからおもちゃ等の寄贈がありました。掲載が遅くなり申し訳ありませんでした。本当にありがとうございました。皆さん大事にして下さい。



先月はかなり流行性の病気が多く見られました。水痘とおたふく(流行性耳下腺炎)は、小学校、幼稚園を始め保育園のあちこちで流行しています。またどういうわけか突発性発疹症がかなり多く見られました。

季節的にはそろそろ夏風邪のシーズンです。手足口病が見られるころになると発疹の出る病気の数が増えてきます。突発性発疹ではありませんが、幼児期のこどもに高熱が下ってから、顔や手足に発疹の出る風邪が目立ちます。このような病気は名前はなく、熱性発疹性疾患やウイルス性発疹症と呼ばれます。風邪の中まで、ウイルスのいたずらによって発疹が出ると考えて下さい。ヘルパンギーナと言って高熱とのどにブツブツが出て痛がるのもこれから多くなってきます。

日本脳炎予防接種について
従来接種機関が5～7月までとなっていたことが、通年で出来るようになりました。間に合わなかった方は、窓口まで御相談下さい。

夏季休暇のお知らせ
今年は**8月10日(日)～15日(金)**とします。御協力よろしくお願い致します。

編集後記
6月に珍しく、台風が2つも上陸しました。しかし今のところ晴れが多く、今年の梅雨はこんなものなのでしょうか?
淳君殺人事件、驚きです。この際もう一度親と子について考えてみたいものです。

